

5・6年生の学習のポイント

学習時間のめやす

60分

●いつ、何を、どのように勉強するのか、自分で考えて学習しましょう（宿題 + 自主学習）

毎日 決めた時間に 自分から

○自分で「決める」「実行する」「たしかめる」^{しゅうかん}習慣をつけ、ねばり強く続けましょう。

○めあて（時間、内容）を決めて必要性のある自主学習に取り組みましょう

※字を書く学習ではだれにでも読めるように丁寧な字で書きます。

【学習のメニュー】

ばっちりメニュー（ドリル的学習）

A くり返し練習型

（基本的な知しきを身に付けるために）

☆漢字、計算、視写※、音読、ローマ字練習、英文・英単語の発音練習

※視写…教科書などの教材を書き写すこと

☆意味調べ、短文づくり

☆四字熟語・ことわざ・慣用句調べ

☆都道府県名・国名・国旗調べ

☆リコーダー・鍵盤ハーモニカ練習

☆体力づくり

B 練習問題型

（学習した内容をしっかり身に付けるために）

☆教科書の練習問題をとく

☆テスト問題をノートに写し、やり直す

☆長文読解や言葉のきまりの復習をする（ドリルやプリント問題をとく）

☆間違い直しをする（間違えた問題に再挑戦する）

☆自分用の問題集に挑戦する

C タブレット活用型（ICTの力をつけ、活用力を高めるために）

☆スマイルドリルやタイピング練習などを行い、基礎・基本の力をつけたり入力の仕方に慣れたりする。

わくわくメニュー（思考力を養う学習）

D 考えまとめ型

（使える言葉を増やし、書く力を高めるために）

☆勉強したことを自分流にまとめ直す

☆授業から、話題のニュースから考えたことをまとめる

☆感想文、本の紹介、日記（うそそうそ・学校生活）を書く

E 調べ学習型

（物事を調べる力や調べたことを整理してまとめる力を高めるために）

☆関心のある内容について、本やタブレットなどを使って調べ、まとめる。

・不思議なこと、もっと深く調べたいこと
・●●ベスト5など

【学習の進め方や目安】

- 家庭学習用ノートを作成し、見開き2ページを目安に取り組みましょう。
- 「ばっちりメニュー」と「わくわくメニュー」のバランスを考えて進めましょう。毎日同じ取り組みにならないように挑戦しましょう。
- 自主学習は、丸付け、間違いなおしまで自分でやりましょう。
- タブレット学習は、学校から出た宿題は「ショートカットキー」からログインをして取り組みましょう。家庭学習として自分で進めたい場合は、「L-Gate」からログインをして取り組みましょう。

学習習慣の基本は家庭から ～おうちの方へ～

子どもの学習能力は、年齢によっても個人によっても異なります。子どもの発達の段階に合わせて、子どもの「自ら学ぶ力」を育てましょう。

そのためには、家族の協力が大切です。

計画的に 学習しましょう



この時期の子どもは…

- 得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
- 大人に一人前に接してもらいたいと感じるようになります。
- 何でも自分でやりたいと思っており、大人に口出しされるのを嫌がります。
- まわりからどう思われているか気になり、友達に合わせて行動しがちです。

●「タブレットを活用する」～これからの教育に欠かせないアイテム～

中和小の高学年は、毎週末タブレットを持ち帰りし、ジャストスマイルを中心とした宿題を出していきます。さらに、調べ学習等で必要な場合は随時持ち帰りをします。早い時期からタブレットに慣れさせ、文房具の一つとなることを目指していきます。持ち帰ったときは、おうちの方のサポートをお願いします。

●「規則正しい生活をする」～学力は規則正しい生活から～

子どもが毎日家庭学習を続けるためには、何よりもまず家庭での生活リズムが整っていることが大切です。「早寝、早起き、朝ごはん」など規則正しい生活を心がけ、心身ともに元気に過ごせるようにしましょう。

●「家族のふれあいをもつ」～温かい家庭が育む学ぶ意欲～

「今日は何を習ったの？」と聞くことから、子どもの復習がはじまります。親が子どもの学びに関心をもつことで、自分のことを見てくれているという安心感を与えます。また、思春期の子どもには、人生の先輩としての経験を語るなど、親の適切なアドバイスが、子どもの健やかな成長につながります。

●自分で決め、実行できるようにアドバイスしましょう

心と体の成長とともに子どもは、自分で考え、行動しようとする傾向が見られるようになります。一方で、相手や周りのことを考えず、自分勝手な振る舞いをしてしまうこともあります。子どもの自主的な行動を認めるとともに、その行動の影響などを子どもが考えられるようにアドバイスをすることが大切です。

「机の上だけが勉強の場ではありません」

自然や人、社会と関わる体験や文化芸術体験をすることで、命や自然の大切さや人と力を合わせ取り組むことの大切さを感じ取ったり、感性を高めたりしましょう。

- ・身近な自然や伝統文化、伝統行事にふれてみましょう。
- ・家でのお手伝いや地域のボランティア活動などに進んで取り組んでみましょう。
- ・博物館や美術館などに行って、さまざまな文化や芸術にふれてみましょう。